ナーシング・グラフィカ 基礎看護学②「ヘルスアセスメント」正誤表

第4版1～4刷　第5版1刷

以下の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

第3章「系統別のアセスメント」　7節「肺（呼吸器系）のアセスメント」
3項　さらに，どのようにアセスメントを進めていくか
表3.7-4●肺のアセスメント：正常範囲と正常逸脱範囲

第4版1～4刷　p. 91
第5版1刷　p. 98

【誤】

正常範囲	正常逸脱範囲
皮膚はピンク色（他の部位と同色） 肋間隙は均等で弛緩している 胸郭は左右対称 肋骨下角は90°未満 呼吸は規則的，14～20回／分，非努力様	皮膚が蒼白，チアノーゼ 肋間隙が突出，後退している 胸郭が左右非対称 肋骨下角が水平，あるいは90°以上 呼吸が不規則，努力様，12回／分未満または20回／分以上，浅表性，深い
前後径と左右径の比は1：1.4～2 （1：2を目安にするとわかりやすい） 胸骨位置は肋骨レベルと同じ 気管は正中に位置 深呼吸時に胸郭が左右対称に拡張する	前後径が拡大し1：1に近い（樽状胸） 胸骨位置が陥没している，突出している 気管が片側に偏位 胸郭の拡張が左右非対称
疼痛，圧痛部位なし 声音振盪は末梢の肺野で減少し，中心部で増強，左右差はなし 共鳴音が確認される	疼痛，圧痛部位あり 肺組織の硬化部位では声音振盪が亢進，気道閉塞部では減少 肺気腫の部位で共鳴亢進，腫瘤あるいは胸水部位で濁音が確認される
横隔膜は第10胸椎位置（最大呼気時）から第12胸椎位置（最大吸気時）まで3～6cm下方に可動，左右の可動域はほぼ等しい	横隔膜の可動域が3cm未満，あるいは6cm以上，可動域が左右非対称
気　　管：気管支（細気管支）呼吸音が気管で聞かれる， 呼気＞吸気 主気管支：気管支肺胞音が主気管支部位（鎖骨～肩甲骨の間）で聞かれる，呼気＝吸気	気管支呼吸音が肺末梢部で聞かれる 気管支肺胞音が肺末梢部で聞かれる

【正】

正常範囲	正常逸脱範囲
皮膚はピンク色（他の部位と同色） 肋間隙は均等で弛緩している 胸郭は左右対称 肋骨下角は90°未満 呼吸は規則的，14～20回／分，非努力様	皮膚が蒼白，チアノーゼ 肋間隙が突出，後退している 胸郭が左右非対称 肋骨下角が水平，あるいは90°以上 呼吸が不規則，努力様，12回／分未満または20回／分以上，浅表性，深い
前後径と左右径の比は1：1.4～2 （1：2を目安にするとわかりやすい） 胸骨位置は肋骨レベルと同じ 気管は正中に位置 深呼吸時に胸郭が左右対称に拡張する	前後径が拡大し1：1に近い（樽状胸） 胸骨位置が陥没している，突出している 気管が片側に偏位 胸郭の拡張が左右非対称
疼痛，圧痛部位なし 声音振盪は末梢の肺野で減少し，中心部で増強，左右差はなし 共鳴音が確認される	疼痛，圧痛部位あり 肺組織の硬化部位では声音振盪が亢進，気道閉塞部では減少 肺気腫の部位で共鳴亢進，腫瘤あるいは胸水部位で濁音が確認される
横隔膜は第10胸椎位置（最大呼気時）から第12胸椎位置（最大吸気時）まで3～6cm下方に可動，左右の可動域はほぼ等しい	横隔膜の可動域が3cm未満，あるいは6cm以上，可動域が左右非対称
気　　管：気管呼吸音が頸部気管で聞かれる， 呼気＞吸気 主気管支：気管支肺胞音が主気管支部位（鎖骨～肩甲骨の間）で聞かれる，呼気＝吸気	ラ音が聴取される 気管支肺胞音が肺末梢部で聞かれる

Copyright©2018 MEDICUS SHUPPAN, Publishers Co.,Ltd. All Rights Reserved.